

Bible Navi
第1課

人生を変える祈り

.....
答えられる祈りの条件とは？





世の中に、多くの聖書教材が存在しますが、
聖書の真の意味を教えている本はどれほどあるでしょうか？

Bible Navi 32シリーズは

アルマゲドン戦争、獣の像、666、
この世界になぜ苦難があるのか、偽キリストの存在、
ニューエイジ運動、イエスキリストの再臨、十字架の真の意味、
生まれ変わったキリスト者の生活、聖書の預言と世界歴史の成就、
地獄の真実、創造と進化、健康的な生活、
「アメリカが聖書に預言されているのか？」
七年の艱難は聖書的だろうか？」など、
是非知っておくべき真理を集めました。

真理を探しておられますか？
この32シリーズを通して、永遠の生命を与えて下さるキリストに
お会いできますことを祈っております。

Bible Navi 32シリーズ

編集 SOSTV Japan Mission

TEL 050-1141-2318

Mail sostvjapan@outlook.com

HP sostvj.net



人生を変える祈り

答えられる祈りの条件とは？

Contents

第1部 祈りとは何か？ 3

第2部 答えられる祈りの条件 5

第3部 祈る理由 9

- ① 告白についての間違った理解 10
- ② なぜ祈るのか？ 13
- ③ 友情 15
- ④ 親しい交わり 16

第4部 祈り—神様のみ手を動かす鍵 19

第5部 答えられない祈りとは？ 22

- ① 主の祈りについての神様との対話 24
- ② 祈りと義務を果たすこと 1 28
- ③ 祈りと義務を果たすこと 2 29

SOSTV 案内

第1部

祈りとは何か？



神

様は、自然と聖書、摂理、および聖霊の感化を通して私たちに語られます。しかしそれだけでは十分ではありません。私たちもまた、神様に心を注ぎ出す必要があります。霊的生命と力を得るためには、私たちの天の父と実際に交わらなければなりません。私たちは、心が神様に引かれ、神様のみわざ、あわれみ、祝福などを瞑想するでしょうが、これは、十分な意味での神様との交わりではありません。神様と交わるためには、私たちの毎日の生活について、何か神様に話すことがなければなりません。

祈りとは、友だちに語るように、心を神様に打ち明けることです。これは、私たちがどのようなものであるかを神様に知らせる必要があるからではなく、私たちが神様を受け入れるのに必要だからです。祈りは、神様を私たちのところへ呼びおろすのではなく、私たちを神様のもとへとひき上げるのです。

イエス様は、この世界においでになったとき、弟子たちにどのように祈るかを教えられ、毎日の必要を神様に求め、どんな心配事もみな神様に任せるように指導されました。そして、彼らの祈りは必ず聞かれるという保証をお与えになりましたが、それはまた、私たちに対する保証でもあります。

イエス様ご自身も、人々の間に住んでおられたとき、たびたび祈られました。救い主は、ご自分も私たちと同じように、欠乏と弱さを覚えて、義務や試練に耐えるための新しい力を天父より受けるために、熱心に祈り求める者となりました。

彼は、すべてのことにおいて私たちの模範です。彼は、弱い私たちの兄弟となり「すべてのことについて、私たちと同じように試練に会われ」ました。しかし、罪のないお方でしたから、そのご性格が悪を退けたのでした。彼は罪の世にあって、激しい心の戦いと苦悩に耐えられました。彼の人間性は祈りを必要とし、また特権とされました。イエス様は、父なる神様と交わられることにより、慰めと喜びを受けられました。人類の救い主である神様の子でさえ、祈りの必要を感じられたのですから、弱く罪深い人間には、どれほど熱心な、絶え間ない祈りがなければならないことでしょう。

私たちの天の父は、あふれるばかりの祝福を私たちに与えたいと待っておられます。限りない愛の泉から、命の水を豊かに飲むことは私たちの特権です。それなのに私たちがほんの少ししか祈らないのは、なんと不思議なことでしょう。

神様は、その子らのどんなにみじめな者であっても、心からの祈りには喜んで耳を傾けようとしておられます。それなのに、私たちの方で、私たちの願いをなかなか神様にお知らせしようとしませんのです。

神様は、限りない愛をもって人類をみ心にかけ、いつでも私たちが求めたり、思ったりする以上に与えようとしておられるのに、誘惑に負けやすい、哀れな力のない人間が、ほんの少ししか祈らず、小さな信仰しか表さない様子を見て、天使たちはいったいどう思うことでしょう。

天使は神様のみ前にひざまずき、神様のそば近くにいることを喜び、神様と交わることを最高の喜びとしています。それなのに、神様のほか与えることのできない助けを最も必要としている地上の子らが、聖霊の光を受けることも、神様との生きた交わりもなく、満足して日を送っているように思われるのです。

悪魔は、祈りをおろそかにする者を暗黒に閉ざし、誘惑の言葉をささやいて罪を犯させようとしています。それはただ私たちが、神様の定められた祈りの特権を用いないからです。

祈りは、全能の神様の、無限の資財が蓄えられている天の倉を開く、信仰の手に握られた鍵です。それにもかかわらず、神様の子らは、なぜ祈りをおろそかにするのでしょう。絶えず祈り、忠実に見張っていなければ、私たちは次第に不注意になって、正しい道からそれる危険があります。敵は恵みのみ座への道をさえぎって、私たちが熱心な祈祷と信仰によって、誘惑に耐えるための恵みと力を受けられないように絶えず働いています。

第2部

答えられる祈りの条件

神

様が私たちの祈りを聞き、それに答えられるには一定の条件があります。まず第一に、私たちは、神様の助けが必要なことを感じなければなりません。神様は、「わたしは、かわいた地に水を注ぎ、干からびた地に流れをそそぎ」(イザヤ44:3)と約束しておられます。飢え渇くように義を慕い、神様を慕う者は必ず満たされるのです。聖霊の感化を受けることができるように心を開かなければ、神様の祝福を受け入れることはできません。

私たちが大きな必要を感じているということは、それ自体が、動かすことのできない理由であり、私たちのために最も雄弁に語ってくれます。けれども私たちは、それらの必要を満たしてくださる方として神様を求めなければなりません。彼は、「求めよ、そうすれば与えられるであろう」(マタイ7:7)と言われました。また、「ご自身のみ子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、み子のみならず万物をも賜らないことがあろうか」(ローマ8:32)とも言われています。

第二番目は、心の罪を正すということです。もし、心に不正のあることを知り、罪と知りながらそれに執着しているならば、主はわたしたちの祈りに耳を傾けられません。けれども、心の砕けた悔い改めた者の祈りは、必ず聞いてくださるのです。心に覚えのある悪をすべて正したときに、神様は私たちの願いを聞いてくださると信じることができます。もちろん、私たち自身のどんな行為も、神様の恵みを受けるにはなんの価値もありません。私たちを救うのはイエス様の功績であって、わたしたちを清めるのもイエス様の血です。しかし受け入れられるには、私たちにもしなければならぬことがあります。



力ある祈りの第三の要素は信仰です。「神に来たる者は、神のいますことと、ご自身を求めらる者に報いて下さることを必ず信じるはずだからである」(ヘブル 11:6)。イエス様も「なんでも祈り求めることは、すでにならされたことと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう」(マルコ 11:24)と弟子たちに語られました。私たちは、み言葉をこの通りに受け入れているでしょうか。

この保証は広大無辺なものです。誠実な神様のみ約束です。私たちが祈ったときに、求めた通りのものが与えられなかったとしても、主は私たちの祈りを聞き、答えてくださることを信じなければなりません。私たちは間違いが多く、先を見ることができませんので、自分の祝福にもならないことを願うことがよくあります。けれども天の父は、愛のうちにその祈りに答え、私たちのために最も良いものをお与えになるのです。それは、もし私たちが天からの光に目が開かれ、すべてのものの真実の姿をながめることができたなら、私たち自身も必ず求めるものです。

私たちの祈りが聞かれないように見えるときも、み約束に堅く頼らなければなりません。なぜなら、祈りが答えられるときが必ず来て、私たちが最も必要とする祝福を受けるようになるからです。けれども、祈りはいつもわたしたちが望んだように答えられ、または、望んだ通りのものが必ず与えられると考えるのは、独断にすぎません。知恵に満ちておられる神様は、決して誤ることなく、また、正しく歩む者に良いものを拒まれることはありません。ですから、たとえ祈りがすぐに答えられなくても、恐れず神様に頼り、「求めよ、そうすれば、与えられるであろう」(マタイ 7:7)という神様の確かなみ約束を信頼しなければなりません。

疑いや恐れに支配され、はっきりわからないことをみな解決した上で信仰を持つようとするなら、私たちはますます迷いの深みに陥るばかりです。けれども、もし私たちがありのままの姿で、自分の力なさ、頼りなさを感じて神様のもとに行き、限りない知恵を持たれる神様に、謙遜に信頼をもって私たちの必要を告げるなら、造られたすべてのものを見守り、み旨とみ言葉をもってすべてを支配しておられる神様は、私たちの叫びに耳を傾け、心に光を照らしてくださいます。真心からの祈りを通して、私たちは無限の神様のみ心に触れるのです。そのとき、あがないの愛とあわれみに満ちて私たちがながめておられるという特別な証拠が与えられなくても、それは事実です。また彼のみ手の接触を実際には感じなくても、愛とあわれみに満ちたやさしいみ手は、私たちの上に置かれているのです。

第四番目に、神様のあわれみと祝福を求めるときは、私たちの心のうちに愛とゆるしの精神を持っていなければなりません。「わたしたちに負債のある者をゆる

しましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください」(マタイ 6 : 1 2)と祈りながら、他人をゆるせない気持ちを持っていられるのでしょうか。もし、自分の祈りが聞かれることを期待するなら、自分がゆるされたいと望むような態度と程度で、同じように人をゆるさなければなりません。

第五番目に、忍耐して祈ることは、祈りが聞かれるためのもう一つの条件です。信仰と霊的経験に成長したいと望むなら、私たちは絶えず祈らなければなりません。私たちは「常に祈り」(ローマ 2 : 1 2)、「目をさまして、感謝のうちに祈り、ひたすら祈り続け」(コロサイ 4 : 2)なければなりません。ペテロは信者に「心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい」(1 ペテロ 4 : 7)と勧めています。パウロは、「ただ事ごとに、感謝をもって祈りと願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい」(ピリピ 4 : 6)と教えています。またユダは「しかし愛する者たちよ、あなたがたは、最も神聖な信仰の上に自らを築き上げ、聖霊によって祈り、神の愛の中に自らを保ち」(ユダ 2 0、2 1)なさいと言っています。絶えず祈るとは、魂がいつも神様と結びつき一致していることであって、神様の生命力が私たちの命の中に流れ込み、私たちの生活から純潔と聖潔とが神様に帰っていくことです。

祈りは努めてしなければなりません。何ものにも邪魔されてはなりません。イエスとあなたの魂との交わりを、常に保つことができるよう、全力を尽くさなければなりません。そして祈りがささげられるところへは、努めて機会あるごとに行かなければなりません。神様とほんとうに交わりたいと求める人は祈禱会に出席し、自分の義務を忠実に果たし、できる限りの利益を得ようと思って熱心です。彼らは、天からの光を受けられる所へはできるだけ機会を作って出かけます。また、家族と共に祈らなければなりません。わけても、密室の祈りをおろそかにしてはなりません。これは、魂の命であるからです。祈りをおろそかにしていながら、魂の健全を願うことはできません。家族の祈り、また、公の祈りだけでは不十分です。人のいないところに退いて、心を探られる神様のみ前に心をすっかり開かなければなりません。

密室の祈りは、祈りを聞かれる神様にだけ聞かれるべきで、好奇心にかられて人が聞いたりすべきものではありません。密室の祈りでは、心は周囲の影響を受けたり、また、興奮したりすることはありません。静かにしかも熱心に、神様に近づこうとします。そのとき、隠れたことを見ておられ、心からの祈りに耳を傾けられる神様から、うるわしく、永久的な感化を受けられるのです。穏やかでしかも単純な信仰によって、魂は神様との交わりを保ち、神様から光を受けて、悪魔との戦いに立ち得るために心は強められ支えられるのです。神様は、私たちの力の源です。

密室で祈りましょう。毎日の仕事をするときにも、しばしば心を神様に向けなければなりません。エノクはこのように神様とともに歩んだのです。

黙祷は、恵みのみ座の前に尊い香りのように上っていきます。このように、神様に心を委ねた人に、悪魔は勝つことはできないのです。

神様に祈りをささげるのに、不適當な時とか場所とかはありません。熱心な祈りの精神をもって、心を天に向けるのに妨げとなるものは何もあります。

雑踏の中でも、商売の最中でも、ちょうどネヘミヤがアルタシャスタ王の前で自分の願いを告げたときのように、神様に願いをささげて導きを請うことができます。祈りの密室はどこにでもあります。私たちは、絶えず心の戸を開いて、イエス様を天来の客として心のうちに住んでいただくよう招待しなければなりません。

たとえ私たちは、汚れた腐敗した空気に包まれていても、その毒気を吸う必要はなく、天の清い空気の中で生きることができるのです。真剣に祈って心を神様の前に高め、不潔、不正な思いが入らないようあらゆる戸を閉じることができます。神様の助けと祝福を受けようとして心を開いている者は、この世の人より清い雰囲気の中を歩き、天と絶えることのない交わりを続けることができます。

第3部

祈る理由

私

私たちはなぜ祈らなければならないのでしょうか？神様はすべてをご存じのお方です。私たちがいちいち告げなくても、私たちの必要をすでにご存じなのです。たとえば親は、子供たちが欲しがる以前に、食べ物や着る者、寝る場所について十分なものを備えようとします。これらのものは、普通の親子であれば、自然に子供に提供されるのです。それにも関わらず私たちが、神様に私たちの必要を申し上げるのはなぜでしょうか？神様が私たちの必要を満たされるのは、当然だという考えを、私たちが持たないためでしょうか。

神様がすべての必要を満たして下さることを信じているのに、私たちがひざまずいて願うというのは、人間の品位を落とすことではないでしょうか？

確かに神様は、人が祈っても祈らなくても、すべての人の必要を満たして下さり、人を差別なさいません。神様は正しい人のためばかりでなく、不信仰な人のためにも、太陽を昇らせ、空気を与え、雨を降らせて下さいます（マタイ 5：4 5 参照）。神様は全くえこひいきなしに、全ての人の必要を満たしておられます。それどころか、多くの場合、不信仰な人たちのほうが、信仰者たちよりもっと豊かに暮らしていることがあります。その逆が普通ではないかと思われそうですが、神様がこのようなことを許しておられるのは、理由があります。もし神様が、正しい者たちにだけ祝福を与え、不信仰な者たちは貧しさで呪うなら、ある人たちは単に、豊かに暮らしたいという欲望のために教会へ行くようになるからです。そうなると、祝福は単に人々が神様に仕えるようになるための賄賂に過ぎなくなります。そのようなことは、神様の救いのみ心とご計画に全く一致しないのです。

神様は人間が、刑罰を恐れる心や、何か報いがほしいからというような、利己的な願望からではなく、ただそれが善であるか悪であるかを判断して、善の道を選ぶ人々を望んでおられます。

また神様は、すべての人を公平に扱われるために、ある人たちは、神様を全く敬う心がないのに、経済的に裕福です。一方では、神様を心から信じる人の中に、とても貧しい人がいます。なぜかというと、前者は勤勉に働き自分たちの才能を最大限に活用するのに対して、後者は、神様が何でも助けて下さるからと言って、まじめに働こうとしないからです。

それでは私たちは、なぜ祈るのでしょうか、神様が、信じる人にも信じない人にも同じように恵みを与え、祈らない人と同じように熱心に働かなければならぬとするなら、祈りの意味はどこにあるのでしょうか？

祈る農夫が、信仰のない隣人と同じように熱心に働かなければ良い収穫を与えられないとするなら、何のために祈るのでしょうか。また、クリスチャンの医学生が、無神論者の友人たちよりもっと良い医者になれないとするなら、何のために医学生は神様に助けを求めて祈るのでしょうか。

1

告白についての間違った理解

今述べたような疑問は、祈りとは「働かないでも神様から何かを得られる特権行為である」というような誤った前提を基礎としたものです。信仰のない者は、成功するために懸命に働きます。では、クリスチャンは祈ることによって仕事の代わりにすることができるのでしょうか？そのようなことはありません。祈りとは実際の行為や仕事に代わるものではないのです。祈るだけで働かない者は、やがて祈ることさえしなくなります。もちろん、祈って悔い改めることで、罪の赦しを受けることは出来ますが、悪い行為の結果を変えたり、それに伴う神様からの刑罰を無くすことはできません。



ダビデは彼の罪を告白して深く悔い改めましたが、彼が犯した罪の結果としての刑罰はなくなりませんでした(Ⅱサムエル 1 2 : 1 3、1 4 参照)。神様の赦しは、決して罪の結果をうやむやにしたり、当然受けなければならない罰を逃れさせるものではありません。この厳粛な事実を、私たちは忘れないようにしなければなりません。

ある学校で一人の学生が重要なテストで不正行為をしました。彼の実力は平均点ぐらいでしたが、不正行為を行った結果、テストの成績が良くなりA評価を受けました。しかし数日後に、彼は良心にとがめられ、自分の不正行為を反省して、先生にそれを告白する手紙を書きました。先生は彼が正直に打ち明けてくれたことを喜びました。その上で、学生の謝罪を受け入れた先生は、彼の成績をAからF(不合格)に訂正したことを連絡しました。そうすると、その学生は、先生の処置に対して大変怒り、自分が正直に告白した結果がこのようになるのなら、不

正を告白しない方がよかった、と言いました。彼が不正を働いたとしても、正直に告白したのだから、せめていつものBかCの評価はもらえるものと思っていたのです。

その学生は、彼が自分の実力で受けなかったテストに対して、なぜ先生が不合格点を与えたのか、理解出来ませんでした。彼は、告白したからと言って、彼が行った不正行為を取り消すことは出来ず、合格点がもらえるような勉強も今さら出来ないということに気がつきませんでした。もし、その学生が告白した結果として、彼に合格点を与えたなら、今後、不正行為を行った他の学生たちにもみな同じようにしなければならなくなるでしょう。そのようにすると、正直に試験を受けた学生たちにとって、とても不公平なことになってしまいます。このように、何かの報いを得ようとする告白は、真心からの告白とは言えません。

神様は、人が罪を告白するなら刑罰を免じてくださると約束して、人と取引をされるようなお方ではありません。従順なものに対して、報いが与えられることは事実ですが、何かを受けとるためにする従順や告白は、ほとんど価値がないと見るべきです。実際、そのような告白にはどんな道徳的価値もありません。それはまるで幼い子供が、ごめんなさいと言わなければ飴玉をもらえないから、しぶしぶあやまるのと同じことです。

旧約聖書に出てくるヨブの場合、まさしくこのような原則が問われていました。サタンはあざ笑うように「ヨブはいたずらに神を恐れましょうか？」と神様に言い返しました。サタンは、ヨブが神様を恐れるのは、神様が彼を祝福されたためであり、ヨブが正しい生き方をしているのは、神様が彼を富ませてくださったゆえであると苦情を言いました。神様が彼の周囲に垣根を巡らして、彼に不幸が来ないように、しっかり守っておられ、どんな悪も彼に触れることが出来ないようにされ、神様が彼の産業を祝福して、彼の財産を増やしたゆえに、ヨブは神様に忠誠を尽くしているだけなのだ、と、サタンは訴えました(ヨブ 1 : 10 参照)。「しかし今あなたの手を伸べて、彼のすべての所有物を撃ってごらん下さい。彼は必ずあなたの顔にむかって、あなたをのろうでしょう」(ヨブ 1 : 11)。

神様は、サタンの不平の訴えを受け入れて言われました。「見よ、彼のすべての所有物をあなたにまかせる。ただ彼の身に手をつけてはならない」と。この試みが起きることをゆるすことによって、神様は、ヨブが神様に仕える理由は財産目当てに過ぎないという、サタンの訴えを打ち負かそうとされました。神様は利己的な動

機によらないで神様に仕える者、神様が祝福を去らせてしまっても、神様を信じる者がこの世にあるという事実を見せようとされました。ヨブ自身は、自分の選択がどれほど重大なものか気づいていませんでしたが、神様は全宇宙を巻き込んだこの善と悪の戦いにおいて、ヨブに信頼をおかれたのでした。

ヨブの財産を奪い取ってもよいという神様のゆるしを得て、サタンはヨブが所有していたすべて、ついには彼の子供たちの命さえも皆奪い取りました。サタンは自分の出来る限りの不幸をヨブにもたらしめました。ヨブの僕たちは走ってきて、相次ぐ災難を報告しました。突然、思いもよらない大きな災難が降りかかってきて、言葉を失ったヨブは、それでも、自分の信仰をこのように表明しました。「『わたしは裸で母の胎を出た。また裸でかしこに帰ろう。主が与え、主が取られたのだ。主のみ名はほむべきかな。』すべての事においてヨブは罪を犯さず、また神に向かって愚かなことを言わなかった」(ヨブ 1 : 2 1、2 2)。

サタンは、神様がヨブの持っていたものを取り去るなら、ヨブは神様を呪うだろうと主張しました。しかしヨブは、かえって神様のみ名をほめたたえました。これは神様側の完全なる勝利でした。サタンがこの試みの条件をつけ、神様がそれに同意されたのですから、サタンはもう何も言えなくなりました。この地球上で、自分の利益のために神様に仕えているのではない人間が、少なくとも一人はいることが証明されたのです。

サタンは敗北しました。しかし、しばらくたつと、彼は戻ってきて言いました。彼が敗北した理由は、ヨブの身体に手をつけることを神様が許されなかったからだ。もし神様がサタンに「ヨブの骨と肉を撃つ」ことを許されるなら、ヨブは神様をののしることになると言いました(ヨブ 2 : 5 参照)。神様はこのサタンの言い分に同意され「見よ、彼はあなたの手にある。ただ彼の命を助けよ」と語られました。

「サタンは主の前から出て行って、ヨブを撃ち、その足の裏から頭の頂まで、いやな腫物をもって彼を悩ました」(ヨブ 2 : 7)。相変わらずヨブは、神様が自分に対してこのような試みをお許しになった理由を知りませんでした。しかし、彼の心は揺らぎませんでした。彼の妻は彼に、「神をのろって死になさい」と言いましたが、ヨブの信仰は揺らぐことがありませんでした。「『あなたの語ることは愚かな女の語るのと同じだ。われわれは神から幸いを受けるのだから、災をも、受けるべきではないか』すべての事においてヨブはそのくちびるをもって罪を犯さなかった」(ヨブ 2 : 1 0)。

試みは終わりました。神様はサタンの主張と訴えが虚偽であることを証明されました。ヨブは、利益を得るために神様に仕えていたのではありませんでした。ヨブは次のような勝利の言葉をもって、彼の信仰を表明しました。「彼が私を殺してもわたしは彼を信頼する」(ヨブ 13:15 KJV)。

2 なぜ祈るのか？

人はなぜ祈るのでしょうか。実は、このような質問が起きる根本的な理由は、人が祈る時、何かの利益を受けたいという目的があって、利益がなければ祈る必要などないと考えているところにあります。しかし、このような考えは、祈りを商売として利用することと同じことになり、祈りの本質を無視していることとなります。

祈りの本質は神様と交わり、友だちと会話するようにそのお方と対話することです。私たちはなぜ友だちと会い、話しをしたり、心を分かち合ったりするのでしょうか。自分の利益になるからとか、何か頼みごとがあるから会話をするわけではありません。そのようなことを思うと自体が、真の友情と親交に相反することになります。

恋人同士は、どうして一緒にいたがり、語り合うことを好むのでしょうか。それはただ、彼らが愛し合っているからというのが正解ではないでしょうか？自分自身の損得を計算することは、彼らの目的とかけ離れたものです。もしそのような理由で愛し合おうとするなら、それは真の愛にとって致命的なものとなるでしょう。なぜなら、本当の愛というのは、受けることでなく、惜しみなく与えることに基づいているからです。

クリスチャンはなぜ祈るのでしょうか？これは、あなたはなぜ愛しますか、とか、なぜ呼吸しますか、と聞くことと同じようなことです。これらはみな自然であり、必要なものです。

愛のあるところに交わりがあり、祈りがあります。クリスチャンに「どうして祈るのか」と尋ねるのはおかしいことです。なぜなら、彼らにとって祈りとはごく自然



な、呼吸のようなものであって、祈らない生活など考えられないのです。もし、幼い子供たちに、どうして嬉しい時や悲しい時にお母さんのところへ走って行って話すのか、また自分が気づいたことやうまく出来たことをお母さんに見せるのかと尋ねられたら、その子は間違いなく、なぜそのような質問をするのかと、不思議に思うでしょう。その子供がお母さん以外に走って行くところがあるでしょうか。子供はそれ以上何かすることがあるでしょうか。

子どもにとってお母さんは、すべての問題を解決することが出来る人です。お母さんは知恵の泉です。お母さんは傷をいやし、涙を乾かしてあげることが出来ます。お母さんは、困った時にどのようにしたらいいかみな知っています。時々子供は、ただお母さんが大好きなだけでお母さんのところへ走って行きます。そして、お母さんが頬をなでてくれて、キスしてくれて、「お母さんもあなたを愛しているよ」と言ってくれる時、子供はどうしてお母さんのところへ走って行くのかを説明してくれるのです。

子供にとって、「なぜお母さんのところへ走って行くの?」と尋ねられることは理解できない不思議なことでしょう。その子供はきっと、「大人は何も分からないのだ」と思うことでしょう。そしてその子供が正しいのです。

同じようにクリスチャンは、彼がどうして祈るのか尋ねられることを不思議に思います。彼は神様に毎日の食物が与えられますようにと求めて、それを受けているのですが、神様を信じない彼の隣人も、祈らないのに毎日の食物を受けていることを知っています。彼は神様がカラスやスズメ、悪者たちでさえ、食物を与え生かしておられることを知っています。それではクリスチャンはどうして祈るのでしょうか?それは、信じない人が、祈りが答えられるための条件を満たしていないために与えられない霊的な祝福を、クリスチャンは食物と共に受けられるからです。

子供たちが成長していく中で、父親はその子供にとって食べ物や着物以上に必要なものがあることを知っています。子供は、心のための栄養、精神的な支え、生きていくための知恵や教訓、友との交流などを必要としています。そのような時、子供たちには父親の助言が必要なのです。子供自身は、そのような助けがどれほど必要であるか気付かないかもしれませんが、父親はそれを知って、その必要を満たすために喜んで最善を尽くします。

天におられる私たちのお父様も同じです。天の神様は、私たちの肉体の必要のために、すべての人に食物を与えられます。神さまはすべての人にこれを提供されますが、多くの人たちは、肉体の食物は受け取りながら、靈魂のための食物は

受け取らず、最後には永遠に捨てられる運命を迎えることになるのです。

神様はすべての者に永遠に至る食物を提供されます。そのお方は、すべての人に手を差し伸べられますが、ただ少数の人だけしか神様のみ手を握ろうとしません。神様がこれ以上何をなさることが出来るでしょうか。人間が、神様が提供される祝福を拒むこと以上に、神様のお心を悲しませることがあるでしょうか。

なぜ祈るのでしょうか、神様から何かを得るためではありません。それは、私たちが神様と親しい友であるからです。無私の愛に基づいた友情にまさって尊いものはありません。それはこの地上に存在する天国であり、永遠のみ国において私たちが経験する、愛と同情で満ちた世界の喜びを前もって味わうことなのです。

3 友情

キリストは「あなたがたにわたしが命じることを行うならば、あなたがたはわたしの友である。わたしはもう、あなたがたを僕とは呼ばない。僕は主人のしていることを知らないからである。わたしはあなたがたを友と呼んだ。わたしの父から聞いたことを皆、あなたがたに知らせたからである」(ヨハネ 15:14、15)。

「あなたがたはわたしの友である」。これ以上に光栄ある言葉がこの世にあるでしょうか？永遠の神様が、私たちが友と呼んで下さるのです。神様はあなたの友となって下さり、あなたが信頼することの出来る方、自由に話せる方、私たちの心の秘密を聞いてもそれを受け止め赦して下さる方、私たちの罪を知ってもあざ笑ったりさげすんだりしない方、あなたを理解して下さる方、あなたを最後まであきらめずに信頼してくれる方、他の人々があなたを誤解する時にも、あなたを弁護して下さる方、あなたがその方から離れている時でさえ、あなたを忘れず見守って下さる方、あなたの弱点を知っていても、あなたを愛して下さる方、助けが必要な時には、いつでもどんな時でもすぐに助けを与えて下さる方、絶対にあなたから離れない方、このような、究極的な友情をあなたと結んでおられる方なのです。

もしあなたがそのような方と友達になりたいなら、聖書の約束を堅く信じ、その方の手をしっかり握って下さい。そして、どんなに台風や竜巻、大雪、津波、山崩れ、火山の噴火が押し寄せて来ても、その友から離れないで下さい。生きている時も死ぬ日にも、その友により頼んで下さい。その友と語って下さい。その友と交わって下さい。その友を愛して下さい。そのような友がすなわち、イエス・キリスト

なのです。決してその友を見捨てないでください。その友は決してあなたを見捨てることはないのですから。

4 親しい交わり

祈りとは神様に何かを語ること、会話すること、それ以上の事です。それは神様と共に過ごす親しい交わりであり、信仰の命なのです。友情や交流において最も大きな喜びは話すことにあるのではなく、話を超えて、心と心が通じ合うことにあります。真の友とはただの一言もしゃべらなくても大切な時間を共有することが出来ます。愛し合う二人は、静かに海辺に肩を並べて座っているだけで、幸福感が満ちあふれます。二人は森の中を歩きながら、落ち葉を踏みしめる音を聞くだけで、何も語らなくても、心が通じ合えるのです。

もし二人がひざまずいて、自分の全てを、神様と相手に捧げるなら、献身の清い喜びと幸福感が心にとどまるでしょう。たとえ言葉は無くとも、愛、喜び、平和な思いが、心を満たすのです。そのような経験を持った人たちは、次の話の意味を理解できるでしょう。

生涯を共にしてきた夫婦は、人生のたそがれ時が近づいて来たある静かな午後、それぞれ自分の好きなことをしながらずっと一緒にいて、それほどのお話もなく過ぎて、夜になるとお互いの気持ちを次のように表現するかもしれません。「今日の午後、私たちは一緒に本当に楽しい時間を過ごしましたね」。このような愛情を理解できる人は、決して「どうして神様に祈るのか？」などと尋ねたりはしないでしょう。

私たちは天のみ国で、父なる神様と共に過ごす生活を、今ここで味わうことが出来ます。天国は単に未来に、死後に起こることではありません。それは、今ここに、現実起こることなのです。神様と共に過ごす生活が、まさしく天のみ国であり、神様の愛の中で安らぎ、祈りによって共に交わることが、地上のみ国を味わうことです。

聖書の中で、ゼパニヤ書 3 章 1 7 節ほど美しく神様の愛を表現した箇所はないでしょう。

「あなたの神、主はあなたのうちにいまし、勇士であって、勝利を与えられる。彼はあなたのために喜び楽しみ、その愛によってあなたを新にし、祭りの日のようにあなたのために喜び呼ばわれる」。

この聖句を読めば、母親が幼い子供をふとこに抱きながら、喜びにあふれて歌い、幼子は母親の腕の中でおだやかに眠っている、そのような情景が思い浮かびます。

これは神様が、私たちに對する愛を表現されることのたとえです。お母さんがふところの子供に静かに歌ってあげるように、神様も私たちに向かって愛の歌を歌って下さいます。神様は私たちを、その愛の中で安らぐようにして下さいます。私たちはこのような神様の愛を知る時、私たちの感謝と愛を捧げずにはおられなくなります。罪人であった私たちを、ご自分の方から先に愛して受け入れて下さる神様を、どうして愛さずにおられるのでしょうか。

たとえようもないほど大きな愛を示して下さいた神様の、その愛に少しでも触れたなら、その方と共に過ごしたいと願わない人はいないでしょう。神様でありながら、人として地上に住んで下さり、限りない愛を示した下さった方を知ったなら、その方と交わることを喜ばない人がいるのでしょうか。祈りはそのような方との交流です。祈りは愛です。祈りは命です。祈りは魂の呼吸です。クリスチャンは、祈りなくして生きることは出来ません。

私たちは神様と交わり、共に歩むことが出来るように祈ります。神様の保護と導きを求めて祈ります。その方が、先に私たちを愛して下さいたからです。そして、神様以外、他の何物も与えることの出来ない、魂の満足を得るために、私たちはその方に祈ります。それは、私たちが願うものを受け取るためではなく、その方のみ心が何であるかを知るためです。

神様のみ心を変えるために祈るのでなく、そのお方が願われるように私たちの心を変えていただくために祈ります。神様が私たちのために持っておられる計画を変えていただくために祈るのでなく、私たちを助けて下さり、そのお方の計画を喜んで受け入れることが出来るように祈ります。

苦痛を避けるためでなく、苦痛に耐えられる力を注いで下さるように祈ります。この世の煩わしさを逃れるために祈るのではなく、この世の中を真実に過ごせるように助けを求めて祈ります。苦しみや試練の中でそれを取り去って下さいと祈るのではなく、苦しみを耐え、それを乗り越える力を下さるように祈ります。

仕事をなくして下さるように祈るのではなく、もっと上手にできるように知恵を求めて祈ります。私たちの罪のために身代わりとして死んで下さるほどに愛して下さったお方を愛するゆえに、私たちは常に祈ります。

多くのクリスチャンにとって、祈りが喜びや特権でなくて、義務になったり、ただ願いごとを並べるだけの形式になっていることがあります。それは本当に悲しむべきことです。しかもこのような態度は、ただ生ぬるいクリスチャンだけに限ったことではなく、熱心で真実なクリスチャンと呼ばれるような人たちの間でも、祈りが習慣的な感動のないものになってしまっていることがあります。

それは多くの場合、人々が祈りの意味とその無限の可能性を、かすかにしか理解していないからです。彼らはただ祈りの言葉が無意味に唱えているだけで、自分自身の心を神様に捧げることを学ばなかったために、目の前に素晴らしいご馳走が用意されているのに、ただのパンくずを拾っているようなものです。

もし心に思い当たることがあるなら、ぜひ次の章にある、力ある祈りの秘訣について学び実行して行って下さい。そうすれば皆さんは、以前には決して知ることのなかった、霊的な世界の祝福を体験されることでしょう。



第4部

祈り— 神様のみ手を動かす鍵

「失望せずに常に祈るべきことを、人々に譬で教えられた」(ルカ 18:1)。
このたとえ話はイエス様が民に語られたもので、しきりに願い続ける一人のやもめの訴えを、ついに聞き入れた不義な裁判官の物語です。この裁判官は、公義に基づいてではなく、彼女が絶えまなく願い続けるために、彼女の望みを聞き入れました。

『たとえ』という単語は、ギリシヤ語『パラボレー』の訳語ですが、これは比喻や例話を意味します。これはあることを分かりやすくするために、例を用いて具体的に理解できるようにすることです。

このたとえ話の目的は、クリスチャンが祈る時に、答えがすぐ出ないように見えても、失望したり、早々と諦めたりしないように教えるためでした。失望や落胆は、その人の信仰が弱くて力のない状態になっていることを表します。それは希望と信仰を失ったことを意味します。落胆は希望、勇気、信仰、そして粘り強さの反対です。

このたとえに登場するやもめは、一度断られても、続けて裁判官の所へ行き訴えました。彼女は断わられても断られても諦めませんでした。なぜなら、彼女は自分の訴えが正当であって、裁判官は彼女の要求を聞く義務があることを知っていたからです。裁判官は彼女を無礼に扱い、彼女を諦めさせようとしたましたが、それは無駄でした。

この裁判官は、公平、公正な神様と対照的に、「不義な裁判官」と呼ばれています。しかし、この不義な裁判官でさえ、ついに「公義」を実行するために、彼女の粘り強い願いを聞き入れたとするなら、「公義」を重んじられる神様は、その心が、神様のみ心と一致している祈りに対して、当然耳を傾け、応答して下さるのではないでしょうか？

時々神様の応答が遅いように思えて、神様は私たちのために何もして下さらないように見えたとしても、神様は変わらず私たちの祈りを聞いておられます。私たちには、神様の応答が遅れているように見えるかも知れません。

どうしてそのようなことが起きるのでしょうか。実は、私たちの捧げる祈りの大部分は、祈る人の益のために遅くなる必要があるのです。神様は私たちの必要を

すでによく知っておられ、それを満たしたいと熱望されます。神様は私たちが祈る前から、私たちの祈りの内容を予見されます。「彼らが呼ばないさきに、わたしは答え、彼らがなおっているときに、わたしは聞く」(イザヤ65:24)。

祈りは私たちを変えます。待つことによって、私たちの態度と品性が変えられていきます。祈りの応答を待つことによって、私たちは神様が下さるものを感謝して受け取る準備をさせられるのです。

たとえば親が、子供がほしがるものを何でもすぐに与えるなら、子供の成長にとって良くないことは誰でも知っています。そのように育てられた子供は、欲が深く、利己的で、感謝する心も分からないようになります。彼らは受けることに慣れ、生きる意欲や知恵を身につけていないために、現在の生活も、やがて訪れる天のみ国での生活も失ってしまうことになるでしょう。

忍耐や困難を乗り越えて成長してきた子供たちは、後になって、他人を思いやり配慮の出来る有用な生活を送ることが出来るでしょう。彼らは自分たちが願う通りのものを手に入れなかったかもしれませんが、そうしたことを通して彼らの品性が啓発されるのです。長年にわたる自己否定の訓練学校で学んだ生き方を通して、彼らは他者を愛するようになり、感謝する心を身につけました。歴史の中にその名を残す偉大な人々は、ほとんどが苦勞という学校で育てられました。

私たちの天のお父様が子供たちを教えられるのに、地上の親たちよりも知恵のないことをなさるでしょうか。

神様は、信仰の粘り強い祈りを聞いて下さいます。しかしイエス様はこのたとえを次のような質問で終えられました。「人の子が来る時、地上に信仰が見られるであろうか」(ルカ18:8)。キリストが再びこの地上に来られる時、つまり地球歴史の終わりの時には、正しい信仰がほとんど見失われているのです。最後の時に



は、祈りの答えが遅れるように見え、信仰が試されます。

しかし、イエス様の質問に対して、ヨハネの黙示録 1 4 章 1 2 節にはその答えが出ています。「ここに、神の戒めを守り、イエスを信じる信仰(イエスの信仰:欽定訳)を持ちつづける聖徒の忍耐がある」。私たちの主が再びこの地へ戻って来られる時、「イエスの信仰」を持つ者たちがそのお方を迎え入れることでしょう。

「イエス様の信仰」、あるいはイエス様が持っておられたのと同じ信仰は、イエス様が信仰の力を得られたことと同じ方法、すなわち「祈りと断食」で得ることができま(マタイ 17:19~21)。ひたすら祈る者だけが信仰を成長させることが出来るようになり、イエス様のように祈りの生活をする人だけが、イエス様が持っておられたような、奇跡を起こす信仰を所有するようになるでしょう。そのような信仰を表す人々だけが、イエス様がこの地へ戻られる時、その方を迎え入れる準備をしていた人と呼ばれるようになるでしょう。そしてその前に、粘り強く祈る信仰の人々が、この世界を栄光で照らす最終メッセージを宣布することになるでしょう。

現代の教会にとって最も緊急であり必要なことは、霊的なリバイバルですが、これは熱心な祈りに対する答えとしてだけやって来ます。教会の歴史の中で、ペンテコステの日以降に起きたすべてのリバイバルは、彼らの望みを粘り強く神様に訴えた少数の聖徒たちによって成し遂げられました。神様に対する敬虔さと、人々に対する大胆さをもたらした聖霊の初めの雨は、少数の人たちが絶え間なく祈り続けた結果として注がれました。教会の中で大々的な改革が起るまで待つ必要はありません。一人の義人の祈りが、神様のみ手を動かすのです。この世界を揺るがした宗教改革の力は、密室の祈りから始まりました。同じように、宗教改革を完成させて、人々をキリストと使徒たちの信仰に立ち帰らせる働きは祈りから始まらなければなりません。

祈りは、この罪多い反逆した世界で、クリスチャンが持つことのできる最も大きな特権です。祈りは私たちの魂にとっての霊的な呼吸となります。信仰生活にとって、祈りは肉体の呼吸と生命の関係と同じです。祈りを怠ることは霊的な死を招きます。祈りは愛する神様との対話であり、親しい交流です。祈りは人を神様に、この地を天に結びつける黄金の鎖です。祈りは世界を支え導いておられる神様のみ手を動かす能力です。祈りは、希望を持ってない人でさえも明るく変える力です。私たちが祈る時、未来は神様の祝福の約束通りに、明るく広がっていきます。

ある人は言いました。「祈りは黄金の川である。ある人たちはひざまずいて黄金の水を飲むが、ある人たちは川のほとりで渴きによって死んで行く」。

第5部

答えられない祈りとは？

以前このようなことがありました。ある牧師の妻は、具体的な必要についてよく神様の助けを祈る人でした。そしての祈りは、聞かれたり聞かれなかったりしていました。ある時彼女は、切手が必要になり、神様に祈りました。彼女は、神様が彼女の祈りを聞き入れて、その日すぐに神様が切手を与えて下さるという確信を持ったのです。ところが切手は与えられませんでした。実はその時、この女性の夫と一緒に働いている老牧師が、献品として切手を受け取り、彼女の夫に渡さなければと思いつつ、ついつい渡してしまっていたのです。

後にそのことをこの女性は知ることになりましたが、神様がこの老牧師の心に、彼女に切手をあげるようにという思いを与えておられたのに、老牧師はそれほど重要なこととは思わず、神様が与えて下さった思いを実行しなかったのです。

この出来事は、祈りの応答について、新しい光を与えるものとなります。私たちは信仰を持って神様に熱心に祈ることは出来ませんが、その祈りの応答は、神様のみ手の支配に従わない人たちによって変えられることがあるということです。誰か他の人を用いて、祈りに応えようと神様が計画しておられる時、その人が神様に用いられることを拒むなら、私たちは祈りの答えを受けとることが出来ません。

このような出来事は、これまで私たちが教えられ、信じてきたことと全く違う祈りの一面を表しています。通常、神様が私たちの祈りに答えられる方法は、3種類あると言われてきました。

- 1、すぐ答えられる祈り
- 2、少し待つように言われる祈り
- 3、より良いものを与えるために答えられない祈り

しかしここで、私たちは第4番目の祈りの答えを知るようになります。それは、祈りの答えとして用いられるべき人が、神様の感動を打ち消して拒むことがある、ということです。

私たちの回りには、善と悪の影響力がいつも取り囲んでいると聖書は教えています。使徒ペテロは次のように警告しました。「身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食いつくすべきものを求めて歩き回っている」(1ペテロ5:8)。それに対してダビデはこう言いました。

「これは主があなたのために天使たちに命じて、あなたの歩むすべての道であなたを守らせられるからである」(詩篇91:11)。

善と悪の影響力の中で、どちらが私たちの生涯を強く支配する原理、原則となるかは私たちの選択によります。

神様は、私たち一人ひとりに必要なすべてのものを豊かに与えて下さることを願っておられますが、それは単に肉体的な衣食住に関するだけでなく、安らぎや幸福感など感性的、霊的なことにおいても豊かであることを願っておられます。使徒パウロは、「わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいっさいの必要を、キリスト・イエスにあって満たして下さるであろう」(ピリピ 4:19)。と確言していました。

時々、私たち自身の選びによって、この祝福を失う場合もありますが、時には私たちの身近にいる人々の間違った選択によって、そのようになる場合もあります。もしあなたの周囲にいる人たちの選択によって、神様が与えようとしておられる祝福が妨げられることがあるなら、どうしたらよいのでしょうか？そのような場合には、その人たちと個人的に会って話すことで、そのような状況を解決していくことも必要でしょう。それとも、その人たちと距離を置くことが良いのかもしれません。特にその人たちの利己的な行動が、あなたや家族の信仰や平安な心を脅やかすようになっているなら、そのようにする必要があります。

しかし私たちはどんな場合でも、彼らのために祈らなければなりません。彼らの人生において善への影響力が、悪への影響力よりさらに強く働くように祈らなければなりません。そのような時私たちは、ヤコブの手紙 5章 16節にある約束を主張することが出来ます。「義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである」。

もちろん、あなたがたとえどれほど熱心に祈ったとしても、彼らは相変わらず善と悪の戦いの中において、善か悪かのどちらかを選ぶことが出来ます。

神様はあなたの生涯において、複雑な状況を助けて下さいます。ある時には、祈りの答えがちょうどよいタイミングで与えられます。ある時は、その応答が長引くことがあるかもしれません。多くの場合、私たちは実際の色々な経験を通して、祈りについて学んでいくようになります。この学びの中で、私たちが忘れてはいけないことなどがあります。それは、私たちの心に誰かのために何か良いことをしなければならぬという思いが生じる時には、たとえそれが私たちにとって犠牲を払わなければならないようなことであっても、喜んでしなければなりません。それは、誰かが助けを求めて、涙ながらに必死で祈っていて、その人の祈りに答えを与えようとして、今日私の心に神様が語っておられるのかも知



れないからです。

神様は私たちの良心、善への思いに働きかけられます。良心は神様のみ声です。私たちがその声を拒むことで、他の人が祈りの答えを与えられずに闇の中にとどまり続けるかもしれません。そのようなことをさせてはなりません。

もう一つ覚えるべきことは、私たちの心に与えられる善への重荷を拒むなら、神様は他の者を用いられるということです。言い換えるなら、神様と力を合わせて働く祝福と機会を失うということです。石ころからでもアブラハムをお創りになることの出来る全能の神様は、私の幸福のために、他人を助けるように呼びかけておられるのです。誰かの祈りに対する応答のために、そして、私自身の魂のために、そのお方の呼び声に従って下さい。

寓話:主の祈りに関する神様との対話

私:「天にいますわれらの父よ」

神様:はい!

私:邪魔しないで下さい、私は今祈っている最中ですから。

神様:でも、あなたはたった今私を呼んだのではないか?

私:あなたを呼んだのですか?いいえ、単に祈っていただけでしたよ。

「天にいますわれらの父よ」

神様:ほら、また、私を呼びましたね。

私:私が、いつですか?

神様:たった今、「天にいますわれらの父よ」と言いましたよ。

では、どんな話がしたいのかね?

私:でも、それには何の意味もありませんよ。ただ、ご存じのように、今日の日課の「主の祈り」を唱えていただけです。いつも「主の祈り」を暗唱しているのです。そうするとクリスチャンの義務を果たしたように思えて気分が良くなるんですよ。

神様:分かりました。では、お祈りを続けなさい。

私:そうしましょう。「御名があがめられますように・・・」

神様:それは今、どういう意味で言った言葉ですか?

私:何のことですか?

神様:「御名があがめられますように」と言いましたね。

私:そうですね、どんな意味なのかよく分かりません。

ただ主の祈りだから深く考えないで唱えていました。どんな意味ですか?

神様:私の名前の中には、私のすべてが入っています。ですから、私の名前は私の品性そのものなのです。私の名前があがめられるためには、あなたの思いと言葉

と行いで私の品性を表わさなければならないのです。

私:よく分かりました!今まで、どんな意味か全然知らないで言っていました。

感謝します。「御国がきますように。みこころが天に行われるとおり、地にも行われますように」

神様:あなたは正直にそのようになることを願うのですか?

私:そうですよ。

神様:それでは、そのようになるために何をしていますか?

私:何をしているかですか?そうですね、考えてみたら何もやったことがないですね。私の考えでは、神様が、天で全てを支配して導いておられるように、この地でもすべてのことを導いて下さればいいなど、そのように思います。ご存じの通り、この地には不幸なことが実にたくさんありますから。

神様:それは私も分かっているよ。でもその前に、

私がまずあなたの心を支配できるようにさせてくれないか。

私:え?何の話ですか?

神様:あなたが口にする言葉、家族に接する態度、短気な性格、あなたが好んで見るもの、何にお金を使うかなど、あなたの行動のすべての面で私があなたを助けることが出来るようにさせてくれないか。

私:ちょっと待って下さい!私だけを責めないで下さい。

私だって他の教会員と同じくらい一生懸命やっているのですから。

神様:私はあなたが、私の心が天で行われるように地にも行われることを願う、というのを聞きましたよ。本当にそうするためには、あなたは、自分を捨て、自分の十字架を負って、私についてこなければならないのですよ。

私:私のすべてを捨てて、主に従いなさいと言われるのですか?

わたしにはまだ楽しんでいることがありますから、それらを捨てることは出来なさそうです。私はそれが好きですから・・・。

神様:何もかもすべてを捨てなさいということではありません。あなたに本当の平安と喜びと幸せを与えるものだけを選びなさいと言う意味です。あなたが今楽しんでいるものは、あなたに本当の幸福を与えているのですか?

私:本当の幸福ですか?いいえ、時間が経つと空しさを感じます。

神様:そう、私はすべて分かっているよ。もしあなたが本当の永遠の幸福を得るために、地上の一時的な満足を手放すと思うなら、私と一緒に克服していくことが出来るのですよ。助けは私が与えます。

私:ところで神様、「わたしたちに日ごとの食物を、きょうもお与えください」という祈りには答えて下さるんですよね?

神様:あなたはまず、霊の食物を求めなければなりません。

今あなたに必要な食物は聖書のみ言葉なのです。その聖書を開いて、あなたの魂の飢えと乾きを満たしなさい。

私: 聖書を読むことが習慣になっていないので、どこを読んだらいいのかわかりませんし、たまに開いて読んでみても意味がさっぱり分からないのです。

神様: 誰もあなたに聖書を開いてあげることは出来ません。あなた自身が開いて、自分の魂の栄養として食べなければならないのです。でも、これを覚えておきなさい。聖書の言葉とは、あなたを愛している私からの愛の手紙だということ、あなたに必要な全てを聖書から見つけることが出来るということ。あなたは今選ばなければなりません。聖書を開いて、祈りながら読むのです。あなたの魂が、私の愛を感じるようになるまで。

私: 沈黙。

神様: 祈りなさい。

私: 神様、私は心配です。

神様: 心配?何を恐れているのですか?

私: 主がこれから何を言おうとしておられるのか、分かります。

神様: そうですか?

私: 「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしてください」。

神様: あなたは、その人をどうするどうするつもりですか?

私: 神様がその人のことを話題にされると思っていました。主よ、その女は、私に嘘を言ってだまし、それをごまかすために、私のありもしないうわさを流したんです。その上貸していたお金は絶対に返してくれません。

今度会ったら、しっかりとちめてやるつもりです!

神様: あなたは今、赦しについて祈ったのではないですか?

あなたの祈りはどうなったのですか?

私: あんな奴を赦す気は起きないし、赦せるとは思いません!

神様: そう、あなたは正直だからね。だけど、憎しみ、恨み、赦さない心はあなたを苦しめるだけですよ。

私: そうですね。でも、その女に仕返しできればスッキリすると思うんです。どうやって復讐するか、計画をみな立てて置きました。私が苦しんだ分、彼女を苦しませてあげなくちゃ、いつまでも気持ちがおさまらないですよ!

神様: いや、そうしたからといって、あなたの気分がもっと良くなることはありませんよ。仕返しは、決してあなたの心を慰めることは出来ません。そのことはあなた自身も、うすうすは感じているのではありませんか?仕返しは、あなた自身をもっとみじめな状態にするだけなのです。それよりも、すべての問題を

私にゆだねてみませんか。私があなただを、永遠の幸福へ導いてあげますよ。

私:このみじめな私を幸福に?どのようにしてですか?

神様:彼女を理解できる心が与えられるように私に祈ってみなさい。そして、彼女を強く支配しているサタンの姿を思い浮かべてみなさい。罪に支配されて、あなたにそのようにすることしかできなかった彼女を、哀れんで赦してあげなさい。それから、あなたも私が与える赦しの経験を味わって欲しい。私があなただを赦しているように、彼女を助けることが出来るように祈りなさい。そうするなら、あなたも、あなたを支配している復讐というサタンの心から自由になり、あなたは罪から解放されて本当の幸福を手に入れることが出来るのですよ。

私:(沈黙・・・そしてため息の後)おお主よ、あなたは正しい方です。いつも主は正しいのです。私は復讐するよりも、あなたとの正しい関係を結びたいと思います。(もう一度ため息)そうです。そうします。彼女を赦します!

神様:そう、よく決心が出来ましたね。どうですか、心に平安が感じられませんか?

私:はい、神様。心が楽になりました。今晩はぐっすり眠れそうです。

今まで、彼女の事を考えると、腹が立ってよく眠ることが出来ませんでした。

神様:そう、人を赦さない心は、私たちから平安を奪ってしまうね。

まだ、祈りが終わっていないね?

私:はい、「わたしたちを試みにあわせないで」

神様:そう、私がいつでもあなたの側にいて、あなたを助けるから、あなたは誘惑されそうな場所には行かないようにしなさい。

私:何のことですか?

神様:あなたはその意味をよく知っていますね。

私:はい、分かります。誘惑に抵抗する力もないくせに、誘惑されそうな場所へ行って、失敗していました。

神様:そう、どんな時でも罪に負けない強い意志を持つことは大切ですが、罪を犯しやすい所へ自分が選んで行くことは、罪との妥協が始まっていることだから、意志が弱められて罪を選びやすくなるのです。

私:「力と栄とは限りなく汝のものなればなり。アーメン」

神様:どうすれば私に栄光を帰すことが出来るか、今あなたは分かってきたと信じるよ。

私:はい。主のみ言葉を信頼し、主の道だけを選びながら、主の後をついて行きます。今日一日、そうやって過ごせるように、常に私の内にいて私を助けて下さるように祈ります。

神様:今あなたは、真心からの祈りを捧げましたね。その心で、

私について来なさい。 **私:**主よ、心から感謝いたします!

祈りと義務を果たすこと 1

私たちは祈りを通して、神様のみ前に進み出ます。祈りは私たちの魂の呼吸であり、あらゆる祝福の通路です。悔い改めた魂が祈りを捧げる時、神様はその人の心の戦いと、その葛藤を覚えておられ、その真実を受け入れて下さいます。

神様はその人の魂に手を置き、すべての悩みをその手に刻んで下さいます。人の心のどんな喜びも、悲しみも、私たちの性格上の欠点や失敗も、動揺や不安を引き起こす感情も、魂を汚すどんな罪も、生涯を動かす思想や目的も、神様はすべてご存じです。私たちが素直な心で神様の前に進み出るなら、神様は私たちを受け入れて下さり、私たちの過去を赦し、思いを清めて下さいます。祈りは疲れ果てた魂に、新しい力と新鮮な感動をよみがえらせます。祈りは私たちと神様を一つに結び付けます。

しかし、祈りは私たちの義務や行動の代わりにはなりません。信仰と行いが別々に存在しているものではないように、祈りと行いもやはり分離できません。神様はすべての者に祈る特権を与えられましたが、同時に一人ひとりに自分の果たすべき義務も与えられました。

多くの場合、祈りと義務は同時に果たされなければならないものです。私たちは、いつ、何を、どのようにするべきかを神様に伺って、それから私たちの義務を全力で尽くさなければなりません。まるで、幼い子供がお母さんに助けを求めながら、一生懸命自分でやろうとするように、神様のみ心と摂理が何であるか、注意深く探りながら、私たちの義務を遂行しなければなりません。神様は私たちに、良心と知性を与えて下さったのですから、私たちはその両者を用いて、神様と交わり、神様のみ旨を理解できるよう努めなければなりません。

この小冊子を通して、読者の皆様は、正しい祈りと祈る理由、答えられる祈りの秘訣などについて理解されるようになり、今までとは違った思いで、祈るようになられることでしょう。人間が空気がなければ生きていけないように、クリスチャンにとって、神様との交わりである祈りがなければ、霊的に生きることは出来ません。毎日、毎時、天に向かう霊的呼吸である祈りの心で過ごしましょう！

祈りによって、神様とさらに密接に深く交わり、神様のみ心を行う読者の皆様とされるように祈ります。

祈りと義務を果たすこと 2

ひとりの少年が人のいない池で溺れています。救命胴衣が近くの木にかかっていました。もしあなたがちょうどそこを通りかかったとしたら、あなたはどのような行動を取るでしょうか？

- 1、その場にひざまずいて、少年を助けてくださいと、神様に祈ります。
- 2、少年に救命胴衣を投げてあげます。
- 3、水に飛び込んで直接助けに行きます。
- 4、何もしないで通り過ぎます。

この4つの対応の中で、クリスチャンである私たちは、どの方法を選ぶべきでしょうか？もしあなたが水泳が得意なら、水の中に飛び込んで少年を助けることが最善だと思うでしょう。もしよく泳げないなら、近くの救命胴衣を投げてあげることでしょう。しかしどんな方法を選択するのであれ、私たちは「主よお助け下さい」と瞬間的に祈り、自分のなすべきことを最善をつくして行おうとするでしょう。

まさにこのような態度が、祈りと義務がよく調和した姿と言えるでしょう。

世界には、多くの人々が、神様を知らず、罪の中に溺れてその魂を滅ぼそうとしています。そのような人のために、ただ救って下さいと祈るだけでは、救命胴衣を投げもしないで、ただひざまずいて少年を助けてくださるように祈っているだけの人になってしまいます。それがどれほど間違った選択であるか容易に知ることが出来るでしょう。

神様は私たちが最善を尽くすことを願われます。私たちが自分の心の中だけで最善を尽くすのではなく、神様のみ心の中で最善を尽くすようにと願っておられます。

反対に、もし水に溺れかかった人が、自分に投げられた救命胴衣を掴むことを拒否して、自分は神様だけを信頼するからと言って祈るだけで終わるなら、その常識と判断が疑われることになるでしょう。神様に対する信仰と、神様があなたに委ねられた義務を実行することとを別のものとして考えないようにして下さい。

義務を行うあなたの心と精神が、神様の霊に導かれるように祈って下さい。まさしくこのような姿勢こそが、祈りと義務が調和した信仰生活なのです。

SOSTV Japan Mission 紹介



1. sostvjp.net

聖書研究用書籍、BibleNavi小冊子(32シリーズ)、インターネット説教、ブログ、SNS、書籍を多数揃えています。(今後も、料理番組、預言セミナー、ダニエル書、黙示録研究書籍、信仰書籍、月刊誌などをご用意する予定です。)

2. 書籍



聖所



手遅れになる
前に



福音の力を
体験せよ



Remember
Me



新生への道



信仰の
リバイバル

3. YouTube <JAPAN SOSTV>

SOSTVジャパンミッションの礼拝用説教、ショートメッセージ、聖書セミナー、聖書研究、預言研究の動画等をご覧になれます。



SOSTVジャパンミッションのすべての資料は無料でお届けしております。
この時代に真理の教えを祈り求めておられる皆様、いつでもこちらの電話番号やメールアドレスにご連絡くださり、資料をご請求いただければ幸いです。

TEL: 050-1141-2318 E-mail: sostvjapan@outlook.com



SOSTV WORLD

日本	050-1141-2318, sostvjapan@outlook.com
韓国	1544-0091, sostvkr@hotmail.com
中国	sostvnet@hushmail.com
アメリカ	1-320-500-1004, sostvus@hotmail.com P.O.Box 787 Commerce, GA 30529
ニュージーランド	0800-42-3004(フリーダイヤル), 649-420-2556, sostvnz@gmail.com
オーストラリア	0425-284-718 sostvau@hotmail.com



SOSTVにご支援を希望されますか？

SOSTVは、読者の皆さんの後援で運営されている宣教ミニストリーです。皆さんの真心からお贈りくださる尊い献金は、より多くの方々に真理をお届けするために、大切に、また慎重に用いさせていただくこととお約束いたします。冊子をご覧になり、心に感銘を受けられた方は、次の口座に後援のほどをよろしく願いいたします。

【後援案内・振り込み先】

ゆうちょ銀行
記号 10570
番号 48323841
名称 SOSTV ジャパン ミッション

（他銀行からの振込み）

ゆうちょ銀行
店名 〇五八
店番 058
預金種目 普通預金
口座番号 4832384
支店名 大多喜郵便局

sostvjp.net

Save Our Souls



ご自身の御子をさえ惜しまないで、
わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、
どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか。
(ローマ8:32)

